

青年農業者の土づくりに関する知識向上に向けた取り組み

ねらい

近年、地域では土壌病害を主要因とする連作障害が顕著化し、管内においても、「レンコン腐敗症」、「ニンジン根部障害」などの土壌障害が発生しており、生産量や品質の低下を引き起こしている。青年クラブ員から改善したいとの声があったことから、支援センターから、「土壌に関する正しい知識の学び直し」を提案し、日本土壌協会主催の土壌医検定の合格を目標に研修会を開催した。また、更なる知識や技術の向上と定着を目的に、キノコ廃菌床堆肥による土壌障害の改善効果を実証するための展示ほを設置した。

活動地域・対象

鳴門藍住地区農業青年クラブ員

普及活動の目標

- ・青年農業者の土づくりに関する知識の学び直し
- ・キノコ廃菌床堆肥の実証展示ほの設置による実地体験

目標に向けた活動概要

(1) 土壌医検定合格に向けた研修会の開催

令和3年度及び4年度にそれぞれ研修会を開催した（写真1）。各年度、3級合格を目標に「土づくりの基礎的な知識」について学べるよう、7月から2月までに月1～2回のペースで9回開催することとした。また、令和4年度は土壌医検定3級合格者を対象に、2級合格を視野に入れた応用的な研修も併せて実施した。



写真1 研修会の風景

(2) キノコ廃菌床堆肥の実証展示ほの設置

座学だけでなく実地体験による学びのため、ホクト株式会社のキノコ廃菌床堆肥施用による実証展示ほを設置した（写真2）。一部のクラブ員は以前からキノコ廃菌床堆肥を利用している一方で、作物に与える影響や土壌改良効果について、客観的な評価はされていない。そこで品質や肥効、土壌分析等の各種試験により、結果を数値化して評価することや、定期的な現地検討会や収穫体験等を通し、更なる知識や技術の向上と定着を目指した。



写真2 青年クラブ員との共同作業による実証展示ほの設置（堆肥の施用）

普及活動の成果

令和4年2月に土壤医検定を受験し、青年クラブ員6名が3級に合格した。各年度とも、研修会全体を通して一定数の参加者があった。また、研修会への参加を機に青年クラブに新規加入した青年農業者もおり、クラブ員増加の一助となっている。さらに令和3年度は、県農業大学の学生が参加し、新たな交流の場となったことに加え、令和4年度は新たに阿南地区や吉野川地区の青年農業者も参加し、県下に面的な広がりを見せ、県内青年クラブの活性化にも寄与している（図1）。

令和3年11月、青年クラブ員のレンコンほ場にて、堆肥を施用（6t/10a, N換算：約85kg/10a）し、その効果を経時的に調査している。令和4年9月までの生育調査では差は見られておらず、令和5年4月に収量を調査する予定となっている。

また、施用量の違いが作物に及ぼす影響や腐熟程度を調査するため、コマツナ種子の発芽試験を実施した。堆肥の施用効果や腐熟化を調査する手法を習得するとともに、堆肥施用量を遵守することの重要性を青年クラブ員と共有できた（図2）。

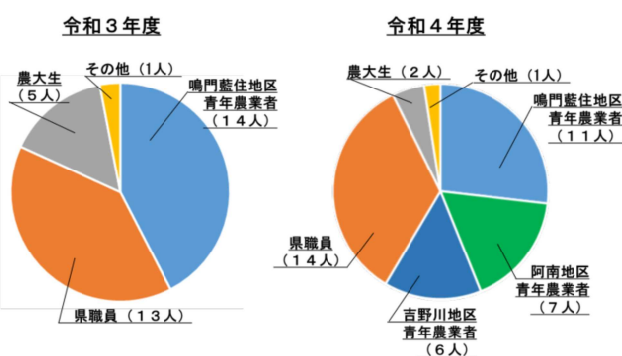


図1 土づくり研修会の参加者構成

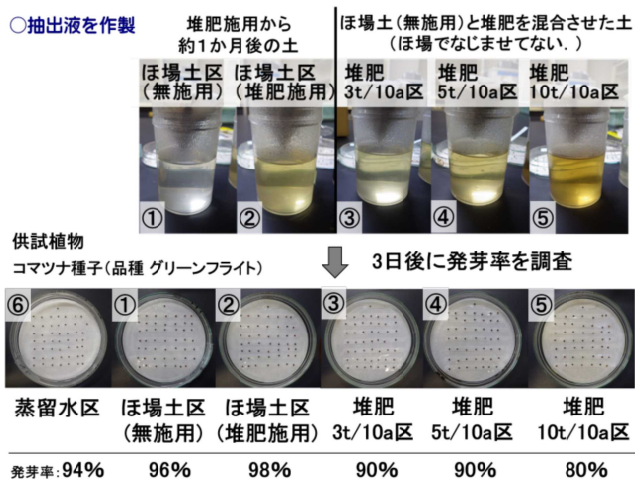


図2 コマツナ種子の発芽試験

用語説明 土壤医検定：日本土壤協会主催の検定試験。土づくりの専門家の育成を目的に2012年度から実施。
キノコ廃菌床堆肥：コーンコブミールや米ぬか、ふすまを原料としたキノコ菌床を堆肥化させた有機質資材。

今後の発展方向

- ・青年クラブ員が自発的な課題解決に向け取り組む機運が醸成され、「キノコ廃菌床の堆肥化センターへ視察に行ってみたい」、「現在利用している微生物資材とキノコ廃菌床堆肥を併用した際の作物への影響を調べてみたい」等の声も上がっていることから、研修会を契機としたさらなる活動の活性化を図る。
- ・今後も継続して活動を支援し、青年農業者自身の資質向上に加え、地域農業者に対して、土づくりについて指導できる青年農業者の育成にも取り組む。

関係者からの声

- ・土づくりの基本を学び直し、自身の農業に生かせる知識を底上げすることができた。
- ・視察研修として、キノコ廃菌床の堆肥化センターにも行ってみたい。

鳴門藍住農業支援センター

連絡先：徳島県板野郡藍住町東中富字拙傍示29 tel：088-692-2515